

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月1日

茨城県知事 大井川 和彦 殿

提出者

住 所 茨城県守谷市緑1-1-1
氏 名 アサヒビール株式会社 茨城工場
統括工場長 出口 喜啓
電話番号（0297）45-7111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	アサヒビール株式会社 茨城工場
事業場の所在地	茨城県守谷市緑1-1-1
計画期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	飲料・たばこ・飼料製造業（酒類製造業・清涼飲料製造業）
② 事業の規模	製造量合計 232,216KL（令和6年1月～12月）
③ 従業員数	313名（令和7年4月1日現在）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1 参照

（日本工業規格 A 列 4 番）02 和



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

体制図については、別紙2 参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 (別紙3 参照)

① 現状

【前年度（令和6年度）実績】

産業廃棄物の種類

排 出 量

t

t

(別紙3 参照)

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類

排 出 量

t

t

(別紙3 参照)

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

- ・工場から排出される全ての産業廃棄物について分別を実施し、契約委託業者において100%再資源化を実現している。
- ・各職場から発生する廃棄物を分別回収するために、工場内に分別ステーション15箇所、分別ターミナル2箇所（分別センターに移送する中継点）を設置し、分別回収をおこなっている。そこで集められた廃棄物は分別センターに集められ、最終的に異物のチェック等を行い、再資源化のために契約委託先が収集運搬している。
- ・再資源化部会を四半期に1回開催、分別状況の確認、現状の分別に関する問題点等の検討を実施。

②計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

- ・工場から排出される全ての産業廃棄物について分別を実施し、契約委託業者による100%再資源化を継続する。
- ・工場内における分別方法を見直し、有価売却先を探し、有価物への切替えを推進する。
- ・再資源化部会を四半期ごとに開催、現状の分別に関する問題点等の検討を行う。
- ・2024年度は、PETバンドの有価物化、動植物性残さ（茶粕など）の有価物化を模索する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項（別紙3参照）			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(別紙3 参照)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(別紙3 参照)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項（別紙3参照）			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(別紙3 参照)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(別紙3 参照)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項 (別紙3 参照)

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(別紙3 参照)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(別紙3 参照)		

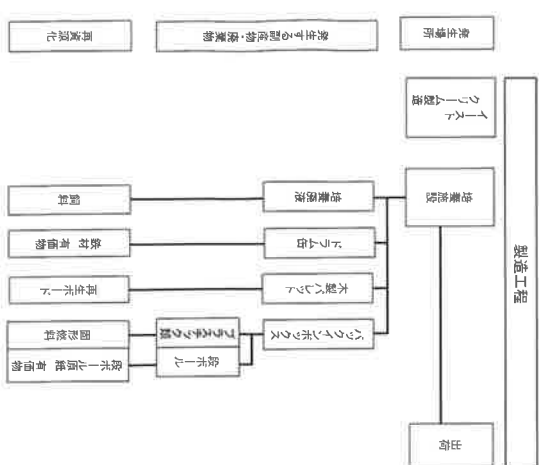
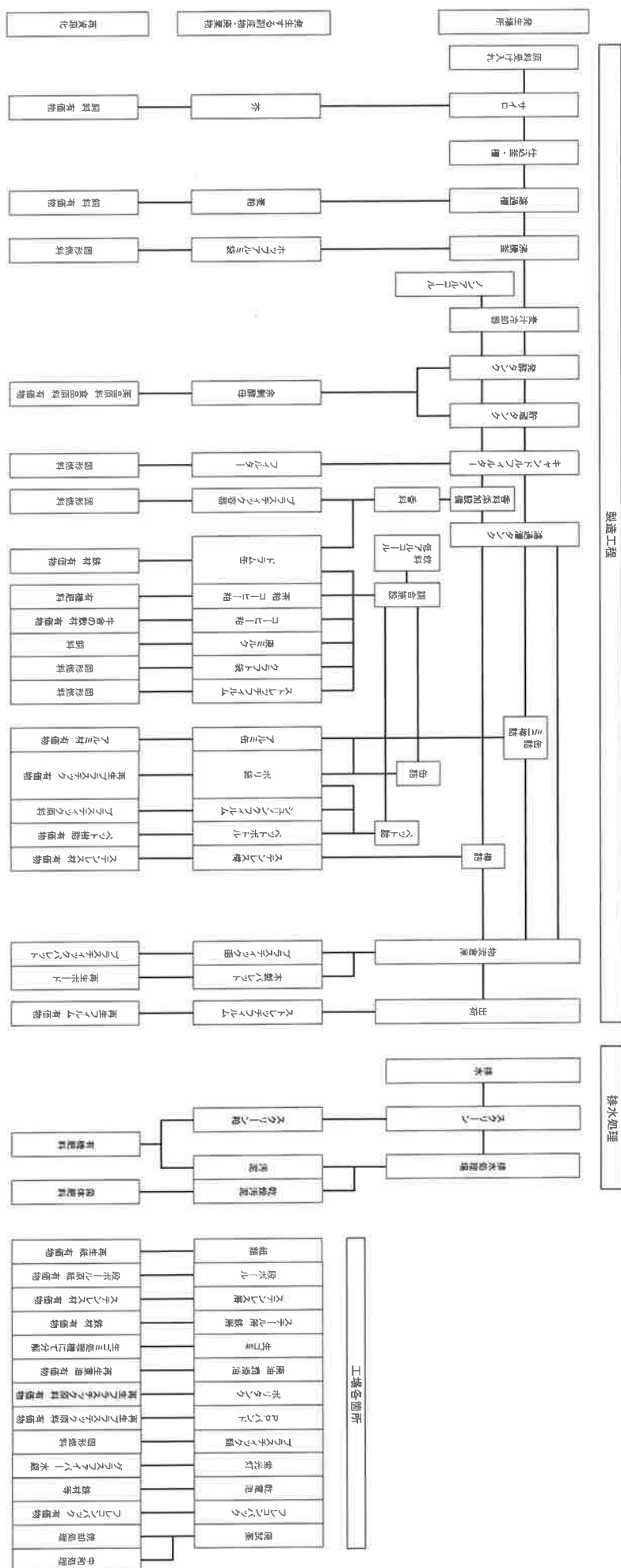
産業廃棄物の処理の委託に関する事項 (別紙3 参照)

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(別紙3 参照)		

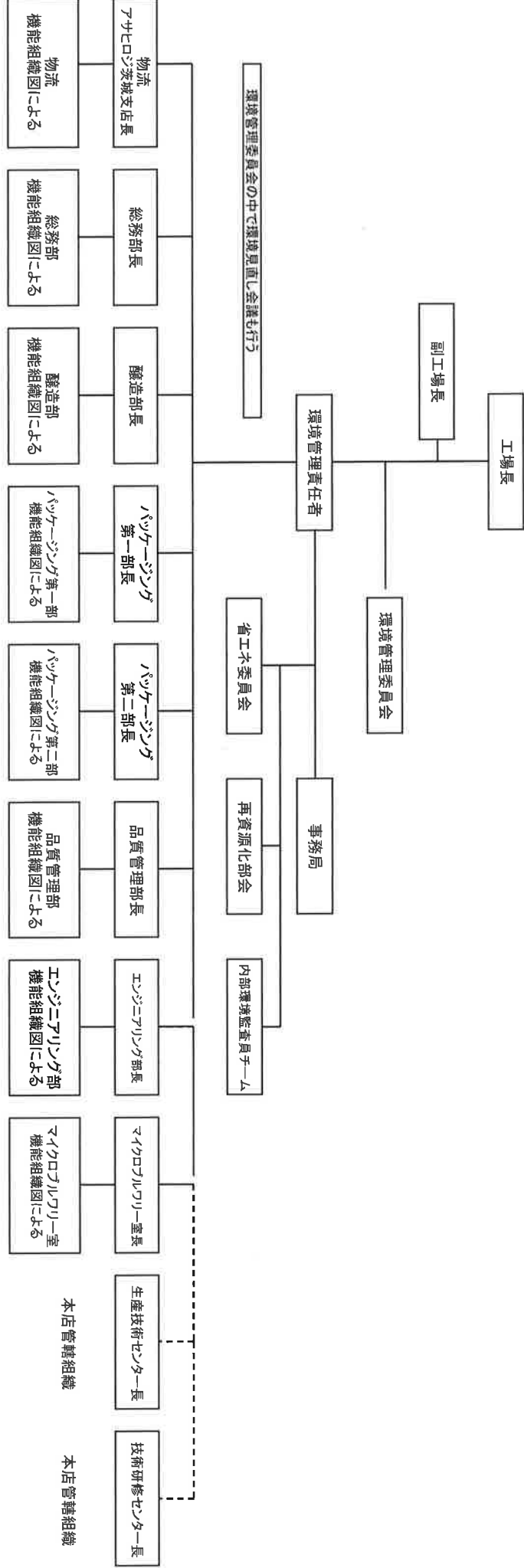
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(別紙3 参照)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



【別紙2】管理体制図(令和7年度)



【別紙3-1】

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】												
産業廃棄物の種類	ガラスくず、コンクリートくず、及び陶磁器くず	汚泥	汚泥、廃プラスチック類、金属くず	金属くず	動植物性残渣	廃アルカリ	廃プラスチック類	廃プラスチック類、金属くず、ガラスコンクリート陶磁器くず	廃プラスチック類、金属くず、ガラス、陶磁器くず	焼油	木くず	合計
①炭灰	株 出 却	3,81 t	3268.44 t	0.38 t	0.02 t	0.00 t	111.51 t	0.87 t	15.84 t	0.09 t	48.83 t	4,484.36 t
<div>（これまでに実施した取組） ※委託処理会社により再資源化を実施</div> <div>・排出物の分別取組を徹底し、委託処理時に100％再資源化についての教育訓練を実施</div> <div>・従業員に資源方針・目的・目標、実施計画、100％再資源化についての教育訓練を実施</div> <div>・廃プラスチック（PET・PP・PA・P・PS）・廃粉体（セメント・石膏）の有価物化</div> <div>・動植物性残渣（コーヒー類・玄米類）の有価物化 ※コーヒー類は再資源</div>												

【口数】													
産業廃棄物の種類	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥	汚泥、廃プラスチック類、金属くず	動植物性廃棄物	廃アルカリ	廃プラスチック類	廃プラスチック類、金属くず、プラスチック類、金属くず	廃プラスチック類、金属くず、ガラス、陶磁器くず	廃油	水くず	合計		
②計割	排 出 量	3,500 t	4,000.00 t	0.30 t	0.02 t	984.000 t	0.00 t	111.00 t	0.80 t	15.70 t	0.00 t	20.00 t	5,135.41 t

（今後発生する予定の事項）

- ・排出時の分別収集を徹底し、委託処理会社により再資源化を促進
- ・従業員に分別方法・目的・目標・実施計画、100%再資源化についての教育訓練を実施
- ・現状に即した分別方法により、分別の徹底を継続
- ・パッキン類の有価物化

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

[illegible]

【日保】										
廃棄物	廃棄物	廃棄物	廃棄物	廃棄物	廃棄物	廃棄物	廃棄物	廃棄物	廃棄物	廃棄物
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥	汚泥、廃プラスチック類、金属くず	金属くず	動植物性汚泥	廃アルカリ	廃プラスチック類	廃プラスチック類、油類くず、トナー類、インク類	廃プラスチック類、金属くず、ガラス・陶磁器くず	廃油	廃油
自ら再生利用を行った産業廃棄物の部	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

（今後更新する予定の取組）
 特になし

自ら行つ産業廢棄物の中間処理に関する事項

【前年度（令和5年度）実績】												
産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥	汚泥・廃プラスチック類、缶類、缶詰くず	金属くず	動植物性残渣	液アルカリ	廃プラスチック類	廃プラスチック類、缶類、缶詰くず、陶磁器くず、ガラス、陶磁器くず	廃プラスチック類、缶類、缶詰くず、陶磁器くず、ガラス、陶磁器くず	廃油	水くず	合計
①焼灰	白灰・熱回灰を行った廃灰・廃棄物の灰	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	白灰・中間処理により減容した産業廃棄物の灰	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

（このまでに処理した取組）
特になし

【目標】											
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥	汚泥、廃プラスチック類、金属くず	缶類、金属くず	廃プラスチック類	アルカリ	廃プラスチック類	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	水くず	合計
自ら燃焼処理を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組)											
特になし											

自ら行う産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】												
産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥	汚泥	動植物性廃液	廃アルカリ	廃プラスチック類	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	廃油	木くず	合計	
①現状	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
（これまでに処理した数量）												
【目標】												
産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥	汚泥	動植物性廃液	廃アルカリ	廃プラスチック類	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	廃油	木くず	合計	
②計画	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
（今後処理する予定の数量）												

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】												
産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥	汚泥	動植物性廃液	廃アルカリ	廃プラスチック類	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	廃油	木くず	合計	
①現状	3,81 t	3,268.44 t	3,268.44 t	984.56 t	0.001 t	111.51 t	15.84 t	15.84 t	0.09 t	48.83 t	4,434.36 t	4,434.36 t
優良認定処理業者への処理委託	3,81 t	15.46 t	0.00 t	4.60 t	0.001 t	109.64 t	0.43 t	15.84 t	0.09 t	48.83 t	198.74 t	198.74 t
再生利用業者への処理委託	3,81 t	3,268.44 t	0.33 t	984.56 t	0.001 t	111.51 t	0.87 t	15.84 t	0.09 t	48.83 t	4,434.36 t	4,434.36 t
認定焼却処理業者への処理委託	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0.0 t	0.0 t
認定焼却処理業者以外への処理委託を行う業者への処理委託	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0.0 t	0.0 t
（これまでに処理した数量）												
・焼却処理の分別を徹底し、委託処理会社により所産削減を実施 ・委託処理会社の処分地環境標準を年1回点検												

【目標】

産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥	汚泥	動植物性廃液	廃アルカリ	廃プラスチック類	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	廃プラスチック類、金属くず、陶磁器くず	廃油	木くず	合計	
②計画	3,500 t	4,000.00 t	4,000.00 t	984.000 t	0.001 t	111.00 t	15.70 t	15.70 t	0.09 t	20.00 t	5,135.4 t	5,135.4 t
優良認定処理業者への処理委託	3,500 t	15.00 t	0.00 t	4.500 t	0.001 t	111.00 t	0.40 t	15.70 t	0.09 t	20.00 t	170.2 t	170.2 t
再生利用業者への処理委託	3,500 t	4,000.00 t	0.30 t	984.000 t	0.001 t	111.00 t	0.80 t	15.70 t	0.09 t	20.00 t	5,135.4 t	5,135.4 t
認定焼却処理業者への処理委託	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0.0 t	0.0 t
認定焼却処理業者以外への処理委託を行う業者への処理委託	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0.0 t	0.0 t
（今後処理する予定の数量）												
・焼却処理の分別を徹底し、委託処理会社により所産削減を実施 ・委託処理会社の処分地環境標準を年1回点検												